

海運の重要性を学校教育の場で
～千葉県柏市の大学にて出前講座を実施～

当協会は、日本の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業の重要性を教育の場において取り上げていただくよう、海事施設の見学会や出前授業の実施等に取り組んでおります。

今般、6月16日（火）に、千葉県柏市にある麗澤大学国際学部の学生を対象に、外航海運の概要について出前講座を行いましたので、その模様をお知らせします。

当講座は、2025年4月に国際学部に新設された「国際社会・国際情報（ISI）専攻」の学生（今年度2年生となった当該専攻の第1期生）を主な対象とし、外部講師を招いた企業講座の第1回目として実施されました。

麗澤大学では、1講義100分としており、途中、質問を挟みながら90分の説明の後、10分間の質疑時間を設けました。講義ではまず、海運のビジネスモデルや海運業について説明し、資源の乏しい島国である日本は外国から多くのものを輸入し、貿易量の99%以上を輸送する海運は重要な産業であることを説明しました。また、過去の経緯と共に、海運業の推移や現在の日本人船員の少なさや日本商船隊について紹介しました。

続いて、日本は海事産業に関わる様々なプレーヤーがそろっていること、海運業はインフラのインフラとして非常に重要であることを説明しました。さらに、様々な船の種類や荷役作業について動画を交えて紹介し、現在注目を浴びているホルムズ海峡を中心に、チョークポイントについて触れ、最後に海運業の環境保全の取り組みについて紹介しました。

受講した学生からは、ホルムズ海峡や原油輸送に関する質問が出たほか、新燃料船や日本商船隊に関する質問も出ました。

当協会は、出前講座等を通じて、海運をはじめとした海事産業を教育の場において取り上げていただけるよう、引き続き活動を展開してまいります。



外航海運の概要に関する講義の様子